

生物文化多様性保全にむけた 政策対話型プラットフォームの構築

国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットは、いしかわ国際協力研究機構を前身として、2008年4月に石川県、金沢市のご支援により国連大学高等研究所(当時)唯一の日本国内フィールドオフィスとして設立されました。

豊かな自然と文化を擁する石川の各地域の取り組みへの支援や人材育成を行うとともに、多様な主体が参加する生物多様性と文化多様性の包括的な保全を目指す、政策対話型プラットフォーム「いしかわ金沢モデル」の構築を進めています。研究活動を通じ、これらの地域の経験を国際社会に発信することにより、地方レベルから国際社会へ貢献する地域モデルとなることを目指して活動しています。

Action 1

国際ネットワーク

地域と国際機関の協働を推進し、地域の活動を国際社会と共有しています。

Action 3

地域の多様な主体との協働

自治体・大学・研究機関・市民団体などの地域の主体と様々な形で協働しています。

Action 2

人材育成

地域資源の価値を国際的にコミュニケーションできる人材の育成に貢献しています。



石川県にある国際認証を受けた自治体(白山市、能登の里山里海推進協議会、石川県、金沢市)の担当者がそれぞれの取り組みと課題を発表、情報共有するとともに、ユネスコからのゲストとともに自治体と国際ネットワークの活用について議論(2015年1月29日)

OUIK と多様な主体(行政、大学、研究機関、学生、NGO、企業、国際機関)で創る「いしかわ金沢モデル」



国際ネットワーク

自然共生の視点から 地域と国際社会をつなぐ

石川県は2010年国際生物多様性年(愛知COP10)クロージングイベント、国連生物多様性の10年のキックオフイベント(2011年)など国際的に節目となる国際会議を開催してきました。国連大学は独自のネットワークや学術的な基盤を生かし、地域と国際社会をつなぐ活動を積極的に進めています。

県内各地域との連携

Network 1

能登 世界農業遺産

2011年に「能登の里山里海」が佐渡とともに国内初の世界農業遺産に認定されています。世界農業遺産国際会議の招致や東アジア世界農業遺産学会の立ち上げに協力し、特に東アジアの世界農業遺産に関する研究ネットワークづくりを推進しています。



主に日中韓の研究者を中心として自治体関係者も交えGIAHSのモニタリングや評価手法、各国の独自性について意見交換を行う(2015年6月)

Network 2

白山麓地域 ユネスコエコパーク

白山麓地域では、ユネスコエコパーク認定地域の計画見直しや、ジオパークがユネスコの正式プログラム化となる動きに合わせ、白山市をはじめとする自治体とユネスコとの協働を側面支援しています。



白山ユネスコエコパーク協議会 / 白山手取川ジオパーク推進協議会事務局とユネスコからのゲストの意見交換

Network 3

金沢市 ユネスコ創造都市金沢2015の記念イベント

金沢市とは、2013年から2015年にかけて「都市と生物多様性」研究プロジェクトを実施してきました。その成果として得られた「里山里海の生物多様性と都市の文化多様性」という視点から、ユネスコ創造都市金沢2015の記念イベントを開催し、生物文化多様性アプローチを活かした包括的な地域資源の保全を宣言した「金沢メッセージ」を提案しました。その実施のために生物多様性条約事務局とユネスコが共同実施する「生物多様性と文化多様性のつながり」プログラムと連携し、石川、金沢の取り組みを発信しています。



ユネスコ、生物多様性条約事務局、フィレンツェ大学など国際機関からのゲストと石川県、金沢市との議論を国連大学研究チームがとりまとめ、金沢メッセージにつなげることが出来た(2015年5月)

人材育成

地域資源の価値を国際的に コミュニケーションでできる人材の育成

国連ミレニアム開発目標 (MDGs) が2015年に終わり、持続可能な開発目標 (SDGs) が国連の場で新たに採択されます。これにより地球規模課題の解決における先進国の役割は、これまでの途上国を援助する立場から自ら行動を起こす当事者へと変わります。そして地域レベルでの取り組みの積み重ねが地球規模課題の解決へとつながることも強調されています。

生物多様性保全、気候変動などに関する国際的な議論を理解し、農林水産業、ツーリズム、飲食業、学校教育、自治体業務に反映させる人材の育成が急務となっています。

Action 1

地方と国際社会を 直接つなぐ 人材の育成

OUIKは地域の国際社会への窓口となり、石川県、金沢市、その他基礎自治体と国際機関の協働事業や対話を促進することにより、地方と国際社会を直接つなぐ役割があります。その過程づくりにおいて、地域資源の価値を国際的に理解し、発信できる地域人材の育成に貢献しています。



金沢大学、金沢市と共同開催した生物文化多様性ワークショップ (2015年7月)

Action 2

地域の高等教育機関 との連携

地域資源や国際的な動きに関する個別講義、教材提供、共同実習などを通じ地域の高等教育機関との連携を推進しています。

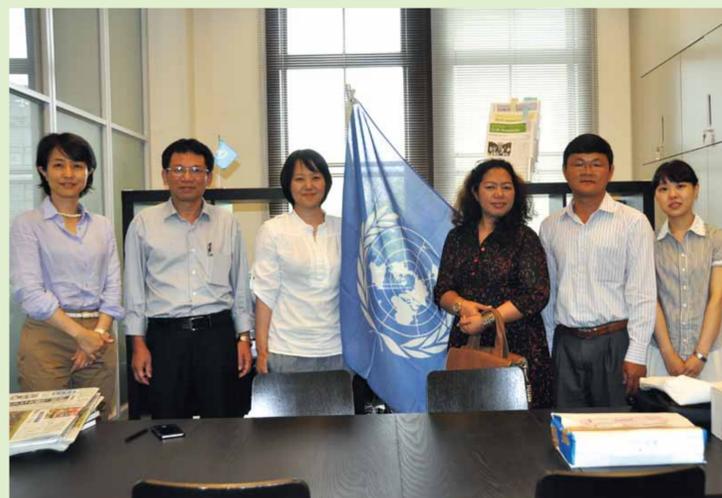


金沢大学環境技術国際コース環境技術地域研修において能登の里山里海について講義 (2015年4月)

Action 3

途上国への 技術移転

世界農業遺産ネットワークを通じて、県が行っている途上国の世界農業遺産構成自治体に対する技術移転に学術面から支援をしています。



石川県による研修でインドネシア、ベトナム、カンボジアからの自治体担当者へ世界農業遺産のコンセプト、認定の取り組みや課題について講義 (2015年6月)



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK)

United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability,
Operating Unit Ishikawa/Kanazawa (UNU-IAS OUIK)

地域の多様な主体との協働

白山ユネスコエコパーク

白山ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は1980年に認定され、白山を中心に石川県、富山県、福井県、岐阜県にまたがっています。貴重な高山生態系の保全だけでなく、山村文化を今に伝える「移行地域」の新設を目指しています。OUIKは白山ユネスコエコパーク協議会の参与として2015年から参画し、国際機関とのネットワークの構築などの支援を行なっています。



手取川から望む白山山系



ユネスコ科学担当官 アナ・パーシク氏の視察/厳冬の石川県白山自然保護センターブナオ山
観察舎にて(2015年1月白山市)



白山ユネスコエコパーク協議会での参与就任のあいさつ(2015年5月白山市)



ユネスコMAB国際調整理事会にてユネスコエコパーク関連の国際的なネットワークづくりに貢献
(2015年6月フランス・パリ)

白山手取川ジオパーク

白山市域とほぼ一致する白山手取川ジオパークは「水の旅」「石の旅」をテーマに上流から下流までの自然と文化を生かした取組みを進めており、世界ジオパークの認定を目指しています。ジオパークがユネスコの正式プログラムとなる動きをふまえ、OUIKは白山手取川ジオパーク推進協議会の会員になるとともに、国内現地審査などの支援を行なっています。



白山手取川ジオパーク協議会定期総会での会員就任のあいさつ(2015年4月白山市)



白山手取川ジオパーク世界推薦申請現地視察での審査支援(2015年8月白山市)

白山から国際プログラム間の
連携を目指す

地域の多様な主体との協働

金沢市生物多様性地域戦略

金沢市は2015年度に生物多様性地域戦略の策定を目指しており、OUIKは戦略策定委員会のメンバーとして参画しています。地域戦略は、生物多様性と恵まれた自然によって育まれた文化とのつながりを明確にし、生物多様性の保全と持続可能な利用施策を総合的に進めていくための計画で、OUIKが2013年から2015年にわたって進めてきた「都市と生物多様性」研究プロジェクトでの成果が反映されています。

金沢の自然と文化のつながりを紐解くための 生物文化多様性ワークショップの開催

Action 1

海外の視点から金沢をみる(2015年7月)

金沢に1年間学んだ留学生たちによる事例紹介から、金沢が、森林、水辺、火山、石、都市公園、工芸など多岐にわたる分野で、かつ世界中のあらゆる地域と対話ができる素地と懐の深さを持っていることがわかりました。



金沢大学留学生、金沢市政策担当者、専門家による車座討議 / 金沢学生のまち市民交流館

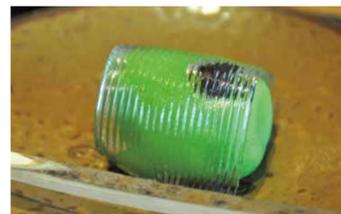


フィールドワークに向けた事前レクチャ / 石川県政記念しいのき迎賓館

Action 2

食文化の継承を考える(2015年8月)

金沢には、加賀野菜、和菓子、日本酒、発酵食など多くの食文化が身近にあふれています。フィールドワークから垣間見えたのは、常に時代の変化やニーズに合わせて食文化が引き継がれてきたことです。今後も、金沢の味覚を財産として次世代に継承していく取組みが注目されます。



清流と川魚の影を思わせる涼しげな和菓子 / 諸江屋(金沢市野町)



石川県立大学学生、金沢大学留学生、金沢市政策担当者、地域専門家が3日間にわたって参加 / 石川県政記念しいのき迎賓館



加賀野菜の保存・生産・販売についてヒアリング / 松下種苗店(金沢市弥生)

金沢市生物多様性 地域戦略の策定に向けて

地域の多様な主体との協働

能登GIAHSの価値を高める

「能登の里山里海」は2011年に佐渡と並び、FAO(国際連合食料農業機関)により世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。OUIKでは、能登GIAHSの価値を上げていくためのアクションプラン改訂など自治体への専門的な支援を行うとともに、能登の事例をモデルケースとしてGIAHSのモニタリング手法の開発を研究しています。



能登GIAHS推進協議会の方々とアクションプラン改訂作業を合宿ワークショップ形式で行う(2015年4月羽咋市)

能登の価値を発信

能登の里山と里海をつながり社会的、経済的な側面から明らかにすることで、「能登の里山里海」の総合的な価値の向上やその発信を目指しています。2015年度はモデル地区の選定を行い、

主に里海で生計を立てている人の営みについて聞き取り調査などを行っています。



地元の方と作業を共にしながらの聞き取り調査



能登の祭りは地域の貴重な文化資源

能登の里海ムーブメント



能登の里海には豊かな生態系が育まれている(写真:能登島ダイビングリゾート)

能登が里海研究の拠点となり、里海の生物多様性保全と人々の生業が活性化されることを目指して「能登の里海ムーブメント」を実施

しています。この一環として、能登の里海講座シリーズを年4回地元自治体と共同開催し、様々な視点から里海を理解を促進し、研究成果として取りまとめ発信します。



里海の研究者、地元の方を調査し見守ってきた行政官、そして漁師として里海と関わってこられた地元の方とのパネルディスカッション(里海講座シリーズ第一回2015年7月七尾市)

能登の里山里海を
次世代に手渡す